

■芽室町農業振興計画策定検討会議 第2回新戦略部会

日時：令和元年12月16日（月）15:00～16:15

場所：役場庁舎地下第2・3会議室

【出席者】

鈴木部会長、畠山副部会長、飯島部会員、藤井部会員、鈴木部会員、飛田部会員

【欠席者】

平石部会員

【事務局】

佐々木補佐、上本主事（畜産係）、近藤主事（農林係）、水野（同）

■ 部会長挨拶

鈴木部会長：

部会員の皆様から忌憚のない意見をお聞かせ願いたい。

■ 議題

(1) 本町農業の現状と課題について

(2) 施策の方向性について

鈴木部会長

議題の本町農業の現状と課題について、資料1に記載のとおり、検討項目に関しては1と2の2項目ある。検討項目ごとに現状と課題の整理と施策の方向性を検討していきたい。また、現状・課題については、参考資料の十勝農業普及センター、JAめむろ、芽室町3団体からの意見集約より抜粋したものを記載している。記載事項以外の現状や課題に関しても部会員の皆様から意見を聞きたい。

事務局

検討項目1、食農及び地産地消について現状、課題について資料1に記載のとおり説明。

鈴木部会長

検討項目1についての説明が終わったので部会員の皆さんからご意見、ご質問はないか。

飯島部会員

地産地消バスツアーに参加したが、参加者が固定化しつつあるのが実感した。生産者の話を聞く等の行程は良いが、町民の周知徹底として裾野を広げるために、学校行事に取り入れることや、他団体（観光物産協会、商工会等）の旅行行事の中で取り入れる等身近なところから取り組んでいくのはどうか。

鈴木部会長

参加費はいくらか。

**事務局**

大人1,500円、中学生以下500円である。内容は、町内工場見学、新嵐山荘(1500円相当昼食付)、収穫体験である。

**鈴木部会長**

この内容だと参加費は高くないように思われる。日程を親子のバスツアーの日等つくってみては。

**飯島部会員**

予算の縛りはないのか

**事務局**

子供も参加してほしいので、土曜日は必ず設定している。また、町民の幅広い層に地産地消を普及させたいので、参加しやすい料金に設定している。予算上、縛りは特にない

**藤井部会員**

参加者はどのくらいか。

**事務局**

一回につき30人定員で年に2回(金曜日と土曜日)行っている。毎回、参加者は30名近い参加があり、年によっては抽選もある。周知においては、広報と町フェイスブックにて周知している。

**鈴木部会長**

子供に参加してもらうなら学校の配布物として周知してみるのはいかがでしょうか。

**藤井部会員**

参加者が年々減少しているわけではなく、参加者が固定されているということか。

**事務局**

そのとおりである。子供連れを増やしたい。内容として見学施設は毎年変えているが、施設見学→新嵐山荘→収穫体験の流れはかわらない。

**藤井部会員**

年間2回で裾野を広げるのは厳しいのでは。予算の関係もあるのかもしれないが、季節ごとに行うとか、募集人数を増やす等はどうか。

**事務局**

収穫の時期が限られるため、季節ごとに行うのは難しい。募集人数も事務局からの当日参加者が2名の為、30人以上になると厳しい。

**鈴木部会員**

課題③について、現状にある、地産地消を意識して買い物している町民の割合が77%と言い切っているが、意識しているか?という問いかけだと、無意識的に「意識している」と回答するのではないか。逆に、23%の意識していない町民を問題視するべきである。また77%が高い数値だとしているが、十勝全体や全国の平均値での比較対象もないことから、77%が安易に高い数値とはいえないと思う。また、課題③の2行目に「地域量販店にも地場産コーナーの設置が行われている。」と記載されているが、このことを知っているか?という聞き方で町民に問いかけたら「知らない」と答える割合が多くなるのではないか。意識をしているがよくわかっていないというような。実効性を高めるにはどうしたらいいかということが地産地消の取り組みにつながると思う。データはこうなったが、それを生かして、本当の地産地消というモノ・カネ・人の動きにどうつなげていくかがポイントになるのではないか

**鈴木部会長**

課題②について、食農教育の指導者不足というのはめむろ農業小学校の指導者の事なのか。

**事務局**

そうである。現在、町内の小学生を対象に月1回程度、年間を通して種まき、草取り、収穫、調理実習までを行っている。その先生役を担っているのが上伏古青年部である。しかし、青年部自体も部員が減少しており、青年部統合に伴って継続が厳しい状況である。生徒自体も50名が定員だが、最近は30名前後の参加者で停滞している。先生役を担う農業者の方向けになにかPR方法はないだろうか。

**島山副部会長**

今までの依頼の仕方は上伏古青年部に頼り切りだったのではないかと。他の青年部に声がかかっているのを聞いた事がない。月1回というのもなかなか厳しい。その中で必要性を農業者にPRしたいとのことだが、やり方を相当考えないと農業者が集まらない。

**鈴木部会長**

青年部全体に依頼するとか。これから青年部は河北、河西、河南で分かれるのだから、今年は河北、来年は河西等の形で依頼してみたらどうか。

**事務局**

全体のJA青年部に昨年依頼したが、大変ということで断られてしまった。別な方法を探さなければならぬ。最終的には個別に興味ある方に直接依頼する方法しかないのではないかなと思っている。

**鈴木部会長**

ボランティアで行っているのか。また、今後上伏古青年部としてはやらないということなのか。

**事務局**

一応報酬はあるが、現在は団体にいくらということで支出している。上伏古青年部自体統合して無くなってしまう。ただ、今も他の地区の若手の方が入っていただいて、任意の団体としているので、町として正式に団体を立ち上げ、そこに入っていただきたいと思っている。

**鈴木部会長**

なまら十勝野などの団体にもあたってみるのはどうか。

**飯島部会員**

高齢化ということで現役を引退したシニア世代の方にあたってみるのはどうか。

**事務局**

町としては今まで生産者と消費者の交流として、生産者世代の方に担っていただいていたが、これからは団体として年齢制限なしで行っていく必要があると思う。が、生産者世代の方にも入っていただきたい気持ちはある。

また、補足として、まだ回答はもらっていないが、芽室高校ボランティア部の生徒さんにも打診している。

**鈴木部会員**

青年部にこだわらず、次世代につなげたいという理念をもつ団体のイベント等とコラボするなど食農教育なのではないかと思う。また、教育長が変わり、食農教育に力を入れるという動きがあると聞いた、実際どうなのか。

**事務局**

食農教育という事に関しては、町長公約にもあるとおり、来年度からは市街地にある、芽室小学校と西小学校において義務教育課程ではほ場体験ふくめた活動を実施する。

**鈴木部会長**

現在生徒の定員50名に対し、約30名の応募ということだが、こちらでもアピールしていかなければならないのではないかと。

**事務局**

義務教育課程の食農教育は授業数の関係もあるため、農業小学校程充実したものではない。年間4回のほ場体験を予定。こちらでも興味をもってもらえれば、農業小学校の方を案内するといった連携した形をとりたい。

**鈴木部会長**

作物は決まっているのか。

**事務局**

その年の担当者同士で決めている。芽室の特産である、スイートコーンとじゃがいもは毎年必ず植えている。

**畠山副部会員**

ほ場はどこにあるか。

**事務局**

美生のかっこうの正面にある。

**鈴木部会長**

送迎は親なので、親にも興味を持ってもらえるようではどうか。調理実習をして終わりではなく、親子で体験できるものにしてはどうか。例えば、大豆を収穫し、緑の恵み館でみそを作るなど。

**事務局**

例年アグリキャンプでは収穫物のかっこうで調理しており、通常授業での収穫の際もほ場に隣接しているかっこうで収穫物を調理し、試食した。

**鈴木部会長**

子供たちの記憶に残るような体験があれば、リピーターにもつながると思われる。

**事務局**

検討項目1の課題の方向性に関して今出た意見を含め整理したい。

課題①について、新規の参加者を増やすためにも周知方法の検討、内容の見直しが必要とされる。参加者の裾野を広げ、回数を増やす、学校にも周知するなどが意見として挙げたが他に何かあるか。

**藤井部会員**

今までもPRされていたようだが、それで人が増えないということであれば、資料にも書いてあるとおり、外部に委託するのが良いと思う。スノーピークのようなその道のプロに頼むなど。良い提案を吸収してみてもどうか。

**事務局**

課題②についてはどうか。

→なし

**事務局**

課題③についてはどうか

**葛西部会員**

地場のものを地域の人に食べてもらうとしたら、まちなかマルシェ等で地域の学生が売ったら親としては買ってあげたい気持ちになる。学校に要望を出したらどうか。そこまでしなくても、たとえば農業小学校で育てた作物を売ったりというところまで行ったらどうか。

**鈴木部会員**

総合計画でも謳っているが、意識をあげても消費促進に繋がらなければ意味がない。となると、商工観光課や観光物産協会等と情報交換やコラボして子供たちに機会のある場を与えたら良いのではないか。一つの課の施策で伸ばすのは難しい。町全体で考えていった方が良いのではないか。

**事務局**

今、来年度予算の協議中だが、地産地消バスツアーや食育講演会は今現在、観光とは直接結びつかないが、今後観光を行っている団体に委託して観光とも結びつけられないかを検討している。

**事務局**

施策の方向性に関して

課題①に関しては外部委託を含めた内容の見直しをおこなっていく。

課題②に関しては青年部にとらわれず、広く地域で賛同者を募っていく。

課題③に関してはデータの取り方は他者との比較は難しいが、他町村でも同様な調査を行っているので調べていきたい。また聞き方だが、もっと他の質問も併用して調査していきたい。

**鈴木部会長**

続きまして、検討項目2の現状と課題について事務局から説明をお願いします。

**事務局**

検討項目2、6次産業化等推進について現状、課題について資料1に記載のとおり説明。

**鈴木部会長**

課題1について、何か意見はあるか。

**鈴木部会長**

自身が6次産業化を行っていることから話をしたいが、初期投資の負担はたしかにあるがそれ以前に物を作って練習する場がほしい。販売許可がある施設を借り、実際に作ってみた後に自分の加工場を持つというほうが賢明ではないかと思う。いきなり何百万もかけて施設を建てても女性農業者が経営主だとして、経費をかけられない。練習する施設が必要だと思う。

**葛西部会員**

緑の恵み館はあくまでも体験施設なのか。

**鈴木部会長**

そうである。自宅で食べるものを作ることはできるが、販売許可はとれない。例えば鹿追町のワーキングセンターでは販売許可を取っているので、農業者が一定額を支払えば売り物はできる。自宅用の品物と販売用の品物では使用料金は異なる。そういう形をとってもいいのかなと思う。課題②のような専門知識の講習会も必要だが、出来上がってからの話になる。しかし、HACAPPのような制度上の知識は先に必要となる。記載順が逆だと思われる。また、課題③であるが、例えば6次化をしたいと思っている女性を集めて、何を作りたいかという意見交換の場を提供し、実際にみんなで作り、試食し、意見を出し合うといった支援は大いに結構だと思う。そして、試作した上で、実際に経営の一環としてやるかどうかは各経営者の判断になる。そうなった時に、補助があったり、低利の貸付があったり、といった窓口があるのととてもいいと思う。また、飛田さんがまさおかさんとコラボし、ケーキを作ったりしている。そのような町内業者と作物を使ってお手伝いしますというような町内業者があればいいと思う。実際落花生生産グループはいちこフーズで行っている。そのような業者を紹介してくれればいいと思う。

**飯島部会員**

愛菜屋のみのり館はどうなのか。

**鈴木部会長**

販売品は作れない。例えば、愛菜屋に何かをくっつけるとしたら、施設の販売許可をとった施設を作り、お金をとって愛菜屋の会員が利用できるようにするのも一つの方法だと思う。また、先日北陸に行く機会があり、「愛菜館 喜ね屋」に行った。向こうは兼業農家がおおいので、女性農業者が起業組合をつ

くり、惣菜や漬物をつくっている。直売所の3分の1が加工場になっておりそこで作られたものがそのまま直売所で売られているという状況であった。愛菜屋でも売れ残りの野菜が問題となっている。それを加工できる場所があればよいと考える。これは経営陣が考えることだが、そういった意見もだしていかなければならないと思っている。

#### 飛田部会員

6次産業化推進は町としてやっていくことでどういった狙いがあるのか。芽室町を全国に発信したいのか、生産者の所得を向上させたいのか。一番は何なのか。

#### 事務局

町の特産物を紹介したい事もある。経営的に6次化で担えることも狙っている。

#### 飛田部会員

十勝だけで売ればいいのか、全国を狙う商品を開発するのかわり方が変わると思うが、自身も町内業者のまさおかに話を頂いて実践したがそれは地域単位での事業だった。十勝の枠を超えて道内、道外を狙っていくと規模感が違ってくるし、かかる予算も違ってくる。その点がしっかり見ると何をするのが逆算して見えてくる。

#### 事務局

町として全国規模の特産加工品を作りたいというのは無い。ただ、現状町としての支援していく市町村戦略も無い。6次化する為の方向性も定まっていない。個人としても6次化を全くできないわけでは無く、国の補助も受けられるが、市町村戦略と合致していないと補助率も低い。そのような障害もあるので農業者がやりやすいような環境整備を行っていく必要があると思う。

#### 畠山副部長

現状個々でやっているが、戦略として個々を変えていきたいのかどうか重要なじゃないかと思う。

#### 事務局

町として音頭をとって団結して何かおこなうという所までは考えていない。

#### 鈴木部長

やりたい人が出てきたときに手を差し伸べるという形か。

#### 事務局

そうである。農業者が実際に行う際に国等の制度がわからないという状態は無くしたいという事。

**飛田部会員**

実際に6次化に意欲のある生産者は把握しているのか。芽室に住んで2年だが、十勝の生産者は豊かなので6次化に興味がない方が結構いる。自身は農地も小さいので価値を高める事に重きを置いているが、問い合わせはあるのか。

**事務局**

問い合わせは来ている。農家個々に調査はしていないので潜在的にどのくらいいるのかはわからないが、検討されているという連絡は結構ある。農政事務所を通して連絡もある。そういう場合は農政事務所と町が何って話を聞く事もある。

**飯島部会員**

今までの意見を聞いていると役場として情報発信するという受け止め方でいいか。町として農家の取りまとめはしないということか。

**事務局**

そうである。

**飯島部会員**

それは農協が行うということか。

**事務局**

農協が主となるかはわからないが、情報発信をして、制度を浸透させたいとは思っている。また、実際に6次化をすることによって経営的にも農業収入以外にも付加価値があるので、農業者が取り組み易い形にしたい。

**鈴木部会長**

町としては間口が開いている事を周知したいということか。その場合、具体的な相談も受けたいという事でいいか。

**事務局**

そうである。実際に6次化をしたいと思っても具体的な計画を立てる事は難しいとおもう。ただ、国の支援制度等につなげられていけばと思う。

**鈴木部会員**

それでしたら、総合計画の方に具体的な相談を受けるとの記載があるのでそれでよいと思う。農業小学校や食育講演会の様にどのように人を集めるかのような議論はしなくてよいと思う。6次化をしたいという人を増やしたいのならもっと議論が必要となると思う。だが、そうでないのなら、これで十分なのではないか。



**葛西部会員**

参考資料の4ページ目に「町として6次産業化を推進するか検討する」とあるが、推進するという方向性で良いか。

**事務局**

そうである。推進は町としてしなければならない。その推進の方法を議論したい。

**鈴木部会長**

そうでしたら、少しでも把握している6次化をしたい人達を集めて、何が必要かという意見を聞いたほうが良いと思う。

**葛西部会員**

参考資料には6次産業化意識調査アンケート等の実施と書いてあるが、これはもうすでにやっているとのことか。

**事務局**

現在は行っていないが、市町村戦略をつくる上では必要となってくる。

**葛西部会員**

であれば、先ほど部会長もおっしゃったように、このアンケートの中で具体的に6次産業化に求めていくところがわかってくるのではないか。

**鈴木部会長**

先ほど、飛田さんもおっしゃっていたように、十勝は裕福な農業者が多い中、そんなに個人で6次化をしたい人は聞かない。

**事務局**

町に相談が来るのも年間2～3件

**鈴木部会長**

大野ファームは6次化の認定を受けているが、大きな農家で状況が違う。ピンキリだと思う。なので少ない個々の農家に対して過剰に補助金だったり、手を差し伸べたりする必要があるのかは疑問に思う。

**事務局**

町としても大体同じような考え。環境整備をしっかりしたい。やりたいのだけれどわからない、難しい。といった共通のものがあれば町として取り入れていきたい。

**鈴木部会長**

そうであれば振興計画にはそういったことを明記すればよいと思う。そんなに推進する必要はないのでは。要望があれば、説明会や講習会も開くという形にすればよいが、開催して、1人や2人の参加者だとそれは違うと思う。何かあった時に相談できる窓口的なものをつくれれば十分だと思う。練習できる加工施設があればよりハードルが下がる。

**飛田部会員**

私も町ができるとしたら、練習できる加工施設だと思う。相談窓口は結構ある。経済産業省や農政事務所など。そういった場所に相談したら、一人プロを派遣してもらえる。町としてできるとしたら、加工練習の場ができたら助かる。ハードルが下がる。

**鈴木部会長**

検討項目②をまとめたいと思う。

**事務局**

検討項目②の施策の方向性としては町としては環境整備に力を入れ、6次産業化をしようとしている農業者へのアンケートや加工施設の提供を行っていきたい。

**鈴木部会長**

以上で議題の審議を終える。

**事務局**

事務局の方から議題について2項目出したが、その他に議題となるものはないか。

→特になし

■ その他

アンケート調査について

アンケート調査について、町民を対象にやるべきか内部で議論したが、本会議体は各分野から代表者が出てきていただいているので、実施しない予定。先ほど出た、6次化のアンケートは市町村戦略策定の際に必要となるためそこで行う予定。

■ 連絡事項

- (1) 次回部会開催予定について  
令和2年2月(予定)

次回部会は2月を予定している。日程は部会長、副部会長と事務局で連絡を取り合って、開催日を決め、追って連絡する。それで進めていいか。

部会員

了承。

飯島部会員

質問なのだが、あと2回の部会で煮詰めるのか、修正を加えるのか。

事務局

今回の部会である程度町の現状と課題を共有したので、それをふまえて現状と課題を固め提示し、それに対して施策とその下にぶら下がる取り組みをある程度出してほしいという事となる。

飯島部会員

了解した。

■ 閉会

以上、16:15 終了。